

第3号議案 令和7年度事業計画（案）及び 令和7年度予算（案）について

社会福祉法人鶴見乳幼児福祉センター 令和7年度事業計画（案）

今年度は中期計画（令和7年度～令和9年度）のスタートの年として、翌年度、翌々年度へしっかり繋げていけるよう、進行管理に十分留意し計画を推進していきます。

1 法人全般

（1）情報収集、情報共有

保育所運営等に関する様々な最新情報を収集し、法人会議・園長会議・職員会議等で情報共有し、実現可能なことについては、必要であれば予算措置をして実施していきます。

（2）環境整備

入所児童・保護者・職員のための環境整備として、園舎・園庭等のハード面、制度・利用方法等のソフト面の両面から、より魅力ある保育園を目指してさまざまな取り組みを推進します。

今年度は、保護者の声を参考に、職員参加による改善案を整理し、多額の予算措置が必要なことについては各年度に振り分けるなど、計画的に進めていきます。

（3）地域特性等に応じた柔軟な園運営

3園それぞれの地域特性、保育所設置経緯、これまでの運営実績等を踏まえて、法人としての一体性を保ちつつ、柔軟な園運営を行っていきます。

今年度は、入船の森保育園について、地理的条件から調理師の採用が難しいことから、給食調理業務の委託を実施します。

（4）職員が働きやすい職場づくり

職員が、より明るく楽しく意欲的に仕事に取り組めるよう、働き方改革を含めて、施設整備、給与改定、就業規則の見直し、福利厚生の充実、貸与服の更新などを行っていきます。

特に今年度は、国の委託費の単価改定により大きく収入増が見込まれることから、職員給与への反映策について多面的に検討していきます。

また、近年社会問題としてマスコミ等にも取り上げられているカスタマーハラスメントについて、職員を守る視点からカスタマーハラスメント対策を策定します。

（5）人材育成

人材育成事業（福祉充実計画、令和2年度～令和6年度）の実施状況を検証し、次期計画を上半期に策定し、実施していきます。

（6）事務処理改善

横浜市の指導監査（令和6年10月実施）の指摘を踏まえて、事務処理の適正化及び効率化を進めていきます。

令和7年度事業計画（案）

保育園名：鶴見乳幼児福祉センター保育園（定員118名）									
1.クラス体制	クラス（クラス名）		児童数（定員数）		職員数		担 当 職 員		
	0歳児 もも組		6名（6名）		2名		林・石川（朝夕）五十嵐・森田・井本		
	1歳児	ちゅうりっぷ組	12名		3名	松本・西島・近藤（真）（朝夕）小林（美）・渡慶次			
		ちゅうりっぷしろ組	8名			2名		小松原・清川（朝夕）柴田・飯島	
	2歳児 さくら組		20名（20名）		5名		西川・富山・平川・山崎・志戸田（新卒）（朝夕）新島・臼倉		
	3歳児 つくし組		21名（24名）		2名		石井・佐々木（海）（朝夕）児玉		
	4歳児 たんぽぽ組		23名（24名）		2名		田邊・谷（4・5歳副担当）		
	5歳児 すみれ組		23名（24名）		2名		宮澤・門間（加配対応）（朝夕）尾崎		
	*主任：中村*事務：佐々木 *フリー：山口・小笠原・井本・矢作・柴田・山口（派遣） *一時保育：松木（5月復帰）								
*管理栄養士：尼野 *調理：斎藤・小林（奈）永野・中野（子育て支援）上竹・近藤（慈）・荻原									
2.職員数	正 規 職 員（24名）								
	園長	主任	主任代行	保育士	管理栄養士	調理	事務員	産休育休	
	1	1		17	1	2	1	1（5月復帰）	
	非 正 規 職 員（21名）								
	保育士	保育補助	栄養士	調理	看護師	その他	派遣職員		
	13	5	1	1	0	0	1		
3.行 事	4月	入園を祝う会・0歳/1歳クラス交流会							
	5月	園児健診・5歳児遠足・ふれあい動物村							
	6月	3歳児保育参加、個別懇談・歯科健診・歯磨き指導・お茶会・プール開き							
	7・8月	5歳児保育参加、個別懇談 / 0歳保育参加、個別懇談							
	9・10月	プールじまい / 秋祭り・園児健診・2歳児保育参加、個別懇談・5歳児お泊り保育							
	11月	歯科健診・1歳保育参加・3歳児遠足・4歳児遠足・歯磨き指導・3, 4, 5運動会							
	12月1月	5歳児個別懇談・おもちゃつき会・お楽しみ会 / 0歳,1歳クラス懇談							
	2月	豆まき会・2歳クラス懇談会・3歳,4歳,5歳生活発表会&クラス懇談会							
	3月	お別れ会・卒園式・進級を祝う会							
	（毎月実施）避難訓練・身体測定、（年4回）わらべうた遊び、（毎週木）リズム遊び、（毎週火）英語教室（年10回）体操教室								
4.運営状況	*4月当初の入所児童0・1・2歳児クラスは欠員ないが3歳児3名4歳児1名の欠員がある状況でスタートとなる。令和7年度は近隣に新築マンションができたため、そこに居住をする家庭のお子さんの入所希望が多くあり、欠員はあるが、例年に比べ順調なスタート								
	*運営費は単価が上がり、公定価格の収入は増額。職員の処遇改善を行うように横浜市からの通達あり基本給改定のため増額をする。								
	諸君玄関前のラバー劣化ひどく修繕の予定、また子育て支援事業のため夏場の園庭開放時の遮光ネットの設置工事の実施。運営費は人件費も取り崩しての対応をしながらの厳しい状況のため、法人への繰入金は今年度は、駒岡・入船の森保育園の2園からの支出								
	神奈川県神奈川県の借地料が7341420円の支出は運営状況の中で大きな負担となっている。								
5.特別保育事業	・障害児受入れ・地域5園交流・英語教室（毎週火曜日）・幼保小交流 ・外国籍の家庭への支援 ・延長保育（18：30～19：00）最終園児降園後閉園								
6.公益事業に向けて	・地域子育て支援事業（常設園として運営） 園庭開放や絵の本貸し出し（おひさま文庫）、町内会館を借りて地域親子の交流の場「おしゃべりしませんか」の開催、わっくん広場へ出張。年4回の講座や相談など地域親子への支援拠点を担う。近隣子育て拠点へ出張保育。・一時預かり事業の実施								
7.実習生・ボランティア受入れ	・養成校、看護学校実習・鶴大歯科歯磨き実習・中学校職業体験・区社協夏ホラ・高校生インターシップ等 ・英語指導・地域の方のボランティア交流								
8.その他	・地域公益活動（地域の夏祭り・地域の子育てイベント・地域の方との交流・公園行事参加等） ・自己評価（保育所・保育士評価）・各種会議（職員会議・加入会議・係・委員会会議）・法人会議 ・園内外の研修各種・キャリアアップ研修 ・法人制度・新制度・指針改定・処遇改善についての対応								

令和7年度 研修計画 鶴見乳幼児福祉センター保育園

＊研修の目的：専門職として、研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務を果たしていく。

＊園外の研修：横浜市主催・鶴見区主催・白峰保育センター主催・県・市・区社協主催・全保協主催・キャリアアップ研修

＊法人研修： ①3園全体研修（年1回） ②新採用者研修（年3回）
③外部講師による管理職・上級職研修

＊園内研修： ①保育所評価・保育士評価の振り返り ②研修報告と実践
③保育環境を考える(他園の見学)
④わらべうた遊び・子どもの育ちを学ぶ（外部講師）
⑤リズム遊び（外部講師、保育の中で学ぶ）

＊自己研鑽： ①横浜のリズム・自然研修・こどもはえがく②れてしゅの会（わらべうたあそび）

人 材 育 成

<人材育成のしくみ>

保育の質の向上をめざし、職員一人ひとりが自己のスキルアップの目的を達成できるよう、上級職員は育成に努めその他の職員は自己研鑽に努めそれぞれが組織の中の役割を理解し業務する。また法人3保育園の共通理解も必要であるため、園長・主任・副主任の連携を密にする。昇格についても、組織の中で意識して仕事ができるように周知し職員が目標を持って業務をし、主任・園長の人材育成に努めて行く。

<わらべうたあそび・リズム・自然研修など>

外部講師を招き、こどもたちと一緒にやることを通して、わらべうた、リズム遊びを学ぶ。こどもの育ちや、振りかえりをやるが、保育の実践の中で生かしていくまた、朝、夕の職員にも自己研鑽や園内研修のために講師の実践をとったビデオを会議の中で時間を設け、保育を語る組織としてスキルアップを図る

<新人研修より>

法人で社会人としてのマナーや同期の皆でコミュニケーションをとり、KJ法により自分なりの目標を持って取り組む。定期的に振り返りを行う。（年3回）

<鶴見乳幼児福祉センター保育園の人材育成>

クラス単位での担当保育士や朝・夕担当職員の連携はグループ会議を行うことで取れるようになってきたが、乳児クラス、幼児クラスの横の連携やコミュニケーションが不足な部分もあり、7年度は横の連携強化を図るため、幼児会議、乳児会議を定期的に設けて保育士の異年齢の保育への意識を高めていく。また主任・副主任の業務分担を明確にすることで、上席職員としての自覚をもって、保育の質の向上をはかり、仕事の分担の見直し。経験年数の職員も、組織の中での仕事への目標を明確にし取り組めるように育成をしてき、保育の質の底上げをはかる。センター保育園は常設園として地域の親子への支援も担っているが、常設園の運営を中心となって担っていくことのできる人材の育成を行い、地域との連携も強化をする。保育士として社会人としての自覚をもち、不適切な言動や行動は自ら気づいて直し、お互いを認め合える関係づくりに努める。

令和7年度事業計画（案）

保育園名：駒岡保育園（定員65名）

1.クラス体制	クラス（クラス名）		児童数（定員数）		職員数		担 当 職 員		
	0歳児 ひよこ組		3名（ 3名）		1名		和田朱里		
	1歳児 すずめ組		8名（ 8名）		2名		片桐悠夏・原愛実花		
	2歳児 ひばり組		11名（12名）		3名		森佐知恵・松木亮太・新人		
	3歳児 めじろ組		14名（14名）		2名		清水彩奈・今井奈穂		
	4歳児 かもめ組		14名（14名）		2名		木下恵理沙・於保春香（加配担当）		
	5歳児 つばめ組		13名（14名）		2名		横溝真由実・糸賀薫（加配担当）		
	【備考】 フリー：蓮池由美子・真壁佳緒里・岡田真衣・蒲地有希菜・菊谷祥代 一時保育：西川真砂子								
2.職員数	正 規 職 員（15名）								
	園長	主任	主任代行	保育士	栄養士	調理員	事務員	うち産休育休	
	1	1		11	1	1	1	1	
	非 正 規 職 員（14名）								
	保育士	保育補助	栄養士	調理員	看護師	その他	派遣保育士		
	8	3	1	3			1		
【備考】									
3.行 事	4月	入園式・各クラス懇談会							
	5月	こまおかフェスティバル・幼児お弁当の日							
	6月	乳児個別面談・春の園児健康診断・泥んこ開放（育児支援）・プール開き・春の歯科健診							
	7月8月	七夕							
	9月	プールじまい・3歳児保育参加・つばめスペシャルデー							
	10月11月	交流保育（育児支援）・秋の歯科健診・幼児遠足・4歳児/2歳児保育参加・炊き出し訓練							
	12月1月	生活発表会・おたのしみデー・2/3/4/5歳児クラス懇談会・お話会（育児支援）							
	2月	豆まき・0/1歳児クラス懇談会・5歳児個人面談・鑑賞会（保護者会）・お別れ遠足							
	3月	ひな祭りお茶会・お別れ会・卒園式・進級を祝う会							
	【毎月実施】誕生会・避難訓練・身体測定・わらべうた遊び年5回・リズムあそび								
4.運営状況	＊障がい児認定1：1…1名 3：1…3名 個別支援…1名 保健センターからの申請待ち3名								
	＊栄養士がR6・6月～R7・8月まで育児休業、派遣の週2日栄養士/週3日の調理補助を雇用。調理補助週3日5時間パート追加。＊正規職員1名新規採用＊非正規フルタイム職員4月より正規雇用								
	2歳児2枠、3歳児1枠、4歳児2枠空き、60名スタート。								
	＊食器の買い替え、保育環境の見直しを行う。								
	＊2階テラスを乳児の屋上庭園に、また園庭整備を行う。また、修繕としてテラスの塗り替えを行う。								
	＊宿舍借り上げ制度利用職員1名。＊職員のための休憩室の整備								
5.特別保育事業	・一時保育事業・小規模保育園との連携・幼保小交流・地域保育園交流・障害児保育・延長保育								
6.公益事業に向けて	園庭開放/育児相談/交流保育/育児支援を通して地域の方々を支える 地域のボランティアの方の受け入れ、園児との交流。近隣の公園へ年長児と清掃活動を行う。								
7.実習生・ボランティア受け入れ	養成校実習生受け入れ・鶴見中学福祉体験・寺尾中学職業体験の受け入れ。北部県立高校インターシップ受け入れ 区社協ボランティア受け入れ。地域の方のボランティア受け入れ。								
8.その他	保育園・保育士の自己評価/各種会議（職員会議・保育会議・クラス会議・各種委員会・係会議） /法人会議・園内外研修各種/キャリアアップ研修								

令和7年度 研修計画 駒岡保育園

*研修の目的：専門職として、研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務を果たしていく。

*園外の研修：横浜市主催・鶴見区主催・白峰保育センター主催・県・市・区社協主催・全保協主催・救命救急等・キャリアアップ研修

*法人研修：①3園全体研修（年1回） ②新採用者研修（年3回）③法人内交換研修

*園内研修：①保育所評価・保育士評価の振り返り ②研修報告と実践

③リズム研修（外部・法人内）④救急法受講（駒岡消防主張所）

⑤わらべうた遊び（外部講師・専門リーダーによる） ⑥鶴見警察署より不審者対応アドバイス

*自己研鑽：①横浜のリズム・自然研修 ②「子どもは描く」研修

③わらべ研修

人材育成

<人材育成のしくみ>

*前年度に引き続き育成シートを利用し、目標設定・育成リーダーによる中間期まとめ期の面談・園長の評価を1年サイクルで行いPDCAサイクルで自己の向上を目指す。また、新人には育成リーダーを付け丁寧に育成を行う

自己のキャリアを構築するため、キャリアアップ研修に参加することで知識を深め、他職員のリーダーとなり発揮していく

<新人研修より>

法人で社会人としてのマナーや同期の皆でコミュニケーションをとり、KJ法により自分なりの目標を持って取り組む。定期的に振り返りを行う。（年3回）

<法人研修としてのとりくみ>

職員同士・保護者・子ども・園関係者との気持ちの良い風土づくりのためにR6年度は法人独自の接遇マニュアルを作成し、11月のドリームプロジェクトでは講師を呼んで接遇研修を行う。また、職員の前には園長・主任がさきに「アンガーマネジメント」を学ぶ。

<駒岡保育園の人材育成>

*R5年度は非正規職員に外部講師による「わらべうた遊びを通した子どもの育ち」の学びを行い、朝夕の時間にわらべを通してゆったりと子どもとかわかることができたこと好評だったため、希望者には引き続き研修に参加してもらえる環境を作っていく。前年度できなかった他園への見学の機会を取り入れ、環境構成や職員の連携等を学んでいきたい。

さらにはコドモンを利用したドキュメンテーションを利用し、それぞれが明日につながる保育を展開できるよう園内研修を行い互いに保育の質を高めていくようにする。

保育園名：入船の森保育園（定員40名）

1.クラス体制	クラス（クラス名）		児童数（定員数）		職員数		担 当 職 員		
	1歳児　ちゅうりっぷ		8名（8名）		2名		高橋・勝俣		
	2歳児　さくら		8名（8名）		2名		藤・竹元		
	3歳児　つくし		8名（8名）		1名		伊藤		
	4歳児　たんぽぽ		7名（8名）		1名		満永		
	5歳児　すみれ		9名（8名）		1名		中村		
	【備考】　障がい児・外国人対応：高倉、個別対応：林・福井、遅番対応：八木下、フリー：植田・柴田								
2.職員数	正 規 職 員（11名）								
	園長	主任	主任補佐	保育士	栄養士	調理員	事務員	産休育休	
	1	1	1	6	1	0	1	0	
	非 正 規 職 員（8名）								
	保育士	保育補助	栄養士	調理員	看護師	その他	派遣保育士	派遣保育補助	
	2	2	0	2	0	0	1	1	
【備考】									
3.行 事	4月	各クラス懇談会・リズム遊び（小学校交流）・津波訓練（入船小合同）							
	5月	園児健診①・5歳児園外保育							
	6月	運動会・歯科健診①・入船の森祭り・幼児保育参加・プール開き							
	7月	七夕（育児支援も含む）・わくドキ会（年長児20:00まで保育）・尿検査							
	9月	3歳児保育参加・プールじまい・リズム交流（育児支援）							
	10/11月	運動会・2，3，4歳児園外保育・乳児保育参加・炊き出し訓練・園児健診②・歯科健診②							
	12/1月	お楽しみ会・伝承遊び・もちつき会・個人面談							
	2月	豆まき・各クラス懇談会・各クラス懇談会							
	3月	入園説明会・お別れ会・卒園式・お別れ遠足							
	【毎月実施】誕生会・避難訓練・身体測定・わらべうた遊び年4回・リズムあそび・英語で遊ぼう								
4.運営状況	・新採用職員1名。正規職員から非正規職員変更者1名。障がい児・外国人対応の保育士を増員								
	・令和8年4月から給食調理業務の外部委託実施に向け、令和7年度は業者選定・移行期間(6か月)								
	・横浜市こ青局整備課と修繕箇所の確認の継続。修繕箇所が増加しているため、買換えではなくリースに切り替えも検討。								
	・1，2歳児クラスは基本的な生活習慣に重点を置く。3，4，5歳児クラスは多様化・障がい児との統合保育の中で異年齢・年齢別・発達別保育を状況に合わせて行っていく。そのための環境整備をする。								
5.特別保育事業	＊幼保小交流　＊地域保育園交流　＊障がい児保育　＊延長保育　＊子育て支援　＊外国人支援 ＊町内連合のお祭り時、ブースを持ち遊びを提供するテナントを出店予定。								
6.公益事業 に向けて	＊各家庭の被服の不用品のリサイクル　＊未就学児家庭への育児支援（園児交流・育児相談） ＊地域のボランティアの受け入れ								
7.実習生・ ボランティア受け入れ	養成校実習生受け入れ・鶴見総合高校保育士体験・寛政中学職業体験の受け入れ・ 区社協ボランティア受け入れ。地域の方のボランティア受け入れ。								
8.その他	小学館「幼児と保育」3歳児カリキュラム寄稿/保育園・保育士の自己評価/園内外研修各種								
	/各種園内会議（職員会議・カリキュラム会議・クラス会議・各種委員会・係会議） /各種法人会議（園長、法人会議・主任会議・給食会議・コドモン会議・ドリーム担当会議）								

令和7年度 研修計画 入船の森保育園

*研修の目的：専門職として、研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務を果たしていく。

*園外の研修：横浜市主催・鶴見区主催・白峰保育センター主催・県・市・区社協主催・全保協主催・救命救急等・横浜市保育士会・こども家庭庁主催

*法人研修：①主任研修 ②新採用者研修（年3回）
③三園研修

*園内研修：①保育所評価・保育士評価の振り返り ②研修報告と実践
③リズム研修（外部・法人内）④研修報告（会議にて受講した研修報告をする）
⑤わらべうた遊び（外部講師・専門リーダーによる） ⑥配慮児対応に研修（外部講師）

*自己研鑽：①よこはまりズム研修会・自然研修 ②「こどもは描く」学習会
③他園訪問・見学

人材育成

<人材育成のしくみ>

・法人として取り組んでいるトレーナー制度を活用し、5等級・4等級が1～3等級のトレーナーとして日常の保育のアドバイスや相談にのる。（年2回面接）園長はトレーナーからの相談やアドバイスをおこなう。

<わらべうたあそび・リズム・こどもは描く 研修>

・法人各園の主任が、外部講師の研修を事前に受けて年間カリキュラムをたてる。そのカリキュラムを外部講師が各園で行うわらべうた遊びと日々の保育で行うわらべうた遊びに活かし、各園・各職員の保育の質の向上につながるようなPDCAサイクルをしていく。
・よこはまりズム研修会では、指導者としてリズム遊びの基礎を学び、研修時には前に出て、モデルの役割を担う職員を育成していく。

<新人研修>

・法人で社会人としてのマナーや同期の皆でコミュニケーションをとり、KJ法により自分なりの目標を持って取り組む。定期的に振り返りを行う。（年3回）

<入船の森保育園の人材育成>

・配慮児が多いクラス運営のスキルを上げるために、療育センターに勤務するワーカーから直接指導を受ける実施研修を行い、保育・環境の見直しを図る。
・外部研修にも自発的に参加することでスキルが伸びる楽しさを職員が感じられる環境づくりをする。また、法人園だけでなく、他園の訪問や、子どもに関わる福祉施設に訪問する機会を設けることで、より幅広く福祉職・対人援助職のスキルを高めていく。